はるかな尾瀬

―目　次―

02　特集1　「尾瀬サミット2019」を開催しました
04　特集2　尾瀬の先駆者たち
06　現地情報
　①原をわたる風だより
　②おこじょだより
08　尾瀬ボランティア情報
09　尾瀬のミニ観察《総集編》⑤
10　尾瀬保護財団からのお知らせ

2019.12 vol.41
（公財）尾瀬保護財団

ヨッピ吊橋付近のヤマドリゼンマイ　撮影日：令和元年10月１日

特集1

「尾瀬サミット2019」を開催しました

公益財団法人尾瀬保護財団では、尾瀬関係者が一堂に会し、尾瀬に関わる課題などを話し合うことを目的とした「尾瀬サミット」を例年開催しています。今年度は、令和元年9月3日及び4日の両日にわたり、新潟県魚沼市等において「尾瀬サミット2019」を開催しました。

今回のサミットでは、平成30年9月に策定された新・尾瀬ビジョンを実際の取り組みにつなげていくため、行動理念として掲げる「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」の中から、「みんなの尾瀬」をテーマとして取り上げました。このテーマを踏まえ、尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていくために必要なことについて、参加者全員で考えました。

【尾瀬サミット2019集合写真】

尾瀬サミット2019

9月3日の「尾瀬サミット2019」第1部では、「尾瀬の普遍の価値を発信する」と題して、提案や発表、意見交換を行いました。

最初に、開催地魚沼市で尾瀬に関わる仕事に就いている「尾瀬大好き女子」から、地域の視点及び女性の視点でお話しいただきました。尾瀬の価値や魅力についての意見発表に加え、新たな利用者やリピーターの獲得といった尾瀬のファンを増やすための方策等についての提案をしていただきました。

次に、周縁地域から見た尾瀬の価値や魅力について、新潟県からお話しいただきました。尾瀬一帯にある多様な魅力の一つである平ヶ岳から見た尾瀬の眺望等、尾瀬周縁地域に存在する様々な魅力について発表していただきました。

これらの発表や提案を踏まえた理事・評議員等との意見交換では、次のような意見が交わされました（一部抜粋）。

○尾瀬の山小屋は今でも快適だが、お風呂の時に使うタオルやドライヤーがあれば女性としてはとてもありがたい。
○尾瀬は安心して歩けることが女性として良い点だが、尾瀬は山岳地帯で湿原だけではなく深い森もあるので、事前の情報収集と、きちんとした装備で尾瀬に足を運んでいただきたい。
○尾瀬の魅力の情報発信について、若い世代にはインスタグラムの影響力はすごくあるので、どんどん使っていただきたい。
○ターゲットを絞って、その人たちが望む情報をどのように届けられるかを考えたい。
○女性だけでなく、ファミリーに優しい尾瀬のためにも、木道や登山道の整備は不可欠である。
○共通の喜びを話し合える、くつろげるスペースがあるとよい。
○山小屋の食事の充実について、女性にとっては重要なポイントである。

【第１部「尾瀬の普遍の価値を発信する」】

第2部では、「尾瀬を愛する輪を広げるために」と題して、小学生等から発表していただきました。最初に、開催地魚沼市において小学校5年生全員を対象に実施している尾瀬学習の参加者から、尾瀬での環境学習で学んだことについて発表を行っていただきました。

続いて、保護者や教員それぞれの立場から、尾瀬を愛する次代の獲得や育成に向けて必要な取り組みを提案していただきました。

これらの発表や提案を踏まえた理事・評議員等との意見交換では、次のような意見が交わされました（一部抜粋）。

○葉っぱの裏がトゲトゲしている花があって、すごいと思った。尾瀬の花を採らないで楽しむためには、虫眼鏡を持って行くとよいと思った。

○木道を作ってくれた人など、尾瀬の自然を守ろうとしている人がいることについて、多くの人に知ってほしい。

○尾瀬のトイレにお金がかかると言うことをたくさんの人に知ってもらうには、ヘリコプターで固形物を運んでいることを知ってもらえばよいと思う。

第3部では、次回の尾瀬サミット2020のテーマについて、ニホンジカによる被害の軽減や科学的知見に基づく保全など、尾瀬を「みんなで守る」とすることを事務局から説明しました。

また、サミット終了後には、新潟大学佐渡自然共生科学センター長の崎尾均教授によるスライドレクチャーを実施し、「水辺林の生態と管理について」と題した講義にサミット参加者の皆さんは熱心に聴き入っていました。

【第２部「尾瀬を愛する輪を広げるために」】

奥只見湖遊覧船視察、自然観察会

9月4日には、奥只見乗船場において、奥只見湖遊覧船の視察を行いました。新潟県魚沼市から尾瀬へのルートは、「船で行く尾瀬」が大きな特徴となっており、遊覧船を運航する奥只見観光株式会社から説明を行っていただきました。その後、遊覧船、バスと乗り継ぎ、福島県檜枝岐村の御池まで移動し、御池田代等において自然観察会を開催し、尾瀬サミット2019は閉幕となりました。

なお来年度は、群馬県片品村において、尾瀬サミット2020を開催する予定です。

【遊覧船視察】

特集2

「尾瀬の先駆者たち」

年間約30万人が訪れる尾瀬国立公園。

多くの人に親しまれる希有な景勝地は、いつから人々に知られるようになったのか。

尾瀬と檜枝岐の関わり、植物学者らによる尾瀬探訪、そして尾瀬ブームの到来と、歴史の一部を紹介する。

第一章「尾瀬と檜枝岐」

福島県側の玄関口である檜枝岐村は、人口約600人の小さな村である。周囲を山に囲まれた厳しい環境の中で、魚や獣を求めて尾瀬に入山してきた歴史があった。

明治時代、いわば生活の場である尾瀬に入山した一部の村人は、釣り小屋を建て半月ほど滞在しては魚を釣り、檜枝岐本村を往復する二点居住の生活を送っていた。

車道も無い時代に尾瀬と檜枝岐本村を往復する事は、大変な作業である事は想像できるが、それだけ金銭の稼げる仕事でもあった。

【檜枝岐村】

では釣り小屋のエピソードを見てみよう。

「こっちから尾瀬に釣りで入ってたのは、弥四郎さん、弟の庄助さん、仲七爺、文八さん、オラで、後から惣吉さんも入った。イワナ釣りって言えば、たいてえ尾瀬だった。

来る人いなかったなあ、尾瀬に。山菜採りとイワナ釣りくれえのもんだ、来たの。絵かきが1人、入ってたなあ、東京から、なんて人だか忘れたが、その人よく来たった。誰もいねえ釣り小屋に泊まったりして、絵かいてた。オジイサンが、釣ったイワナくれると、喜んでたなあ。」

平野與三郎「山人の賦Ⅱ」より

このエピソードを見ると、地元民が入山する程度で、人はほとんど見かけなかった事が分かる。

しかし、釣り小屋はいつの間にか時代と共に山小屋へと変貌し、尾瀬には多くの人が訪れるようになった。

それでは、いつから尾瀬は多くの人に知られるようになったのか。

第二章「明治の旅人」

尾瀬沼湖畔に建つ歴史ある山小屋「長蔵小屋」は、初代平野長蔵氏が、沼尻近くのオンダシ沢に行者小屋を建てた事に始まる。長蔵氏は明治43年に小屋を沼尻に移転し、これが尾瀬で最初の山小屋と言われる。

これから紹介する人物たちは、長蔵小屋と釣り小屋に泊まり尾瀬を歩き、世間に紹介していく事になる。

尾瀬が初めて世間に紹介されたのは、明治27年の利根川水源探検隊の紀行文だった。この紀行文は一部の知識人の目にとまり、尾瀬が知られるきっかけとなった。

ナガバノモウセンゴケを発見した早田文蔵博士もその一人であり、探検隊の紀行文から4年後の明治31年に尾瀬初入山。その成果を植物学雑誌にて発表し、尾瀬が植物学的に希少な場所である事が紹介された。

さらに7年後の明治38年には植物学者の武田久吉博士が尾瀬初入山。日本山岳会の機関誌に尾瀬紀行を掲載。専門分野の植物だけではなく、尾瀬の景色も広く紹介した。

尾瀬紀行を読んで興味を持った画家、大下藤次郎画伯は3年後の明治41年に尾瀬初入山。尾瀬沼を中心に写生を行う。美術雑誌みずゑに掲載され、尾瀬の景色が視覚的に紹介される事になる。

日本山岳会3代目会長の木暮理太郎氏は3人をこう総評している。

「早田博士は植物の方面から、武田博士は専門外の文筆の方面から、大下画伯は絵画の方面から、尾瀬の風景を世に出した最初の恩人である」

木暮理太郎「山の憶い出」より

この先人達は釣り小屋や長蔵小屋を利用して尾瀬を歩き尾瀬を紹介し、徐々に尾瀬の名とその景観が知られるようになった。しかし、多くの人が訪れる様になるのはもう少し先の話。いったいいつから尾瀬に何十万人もの人が訪れるようになったのか。

【大下藤次郎画伯の風景画】

第三章「尾瀬ブームの到来」

明治時代が終わり大正末期から昭和初期にかけて、尾瀬沼を訪れる人は大正15年で1157人。10年後の昭和11年には3104人。徐々に訪れる人が多くなってきたことが分かる。

しかし、昭和14年になると日本は戦争へ突入していく。翌年の昭和15年には召集令状がいつ届くか分からない状況で、最後の見納めに尾瀬を訪れる人が急増した。

昭和18年には戦争は激化。尾瀬を訪れる人はほとんどいなかったと言う。そして昭和20年、戦争終結へ。

2年後の昭和22年、戦争に心痛めた国民を元気づける「夢と希望のある歌」の制作を依頼された江間章子さんは、尾瀬の感動を歌にした「夏の思い出」を作詞する。

昭和24年にNHKのラジオ番組『ラジオ歌謡』にて放送されると、瞬く間に国民の心を捕え、曲中に現れる尾瀬の人気は飛躍的に高まった。更に天然記念物にも指定され、昭和30年代には空前の尾瀬ブームが到来する事になった。

おわりに

今回、尾瀬の歴史を少しだけ紹介しましたが、尾瀬の歴史を語る上で外せない「自然保護」の事については敢えて触れませんでした。

はばかりながら皆様に、本を読んで学んでいただきたいと思う一心から、参考にした書籍を紹介したいと思います。

本を読み尾瀬を深く知ることで、これまで以上に尾瀬の景色が美しく感じられますよ。

【混雑する大江湿原】

参考文献

・尾瀬と檜枝岐 - 川崎隆章
・尾瀬100年 登山と自然保護 - 宮崎邦一郎
・尾瀬ものがたり - 浅野孝一
・山人の賦Ⅰ - 平野惣吉
・山人の賦Ⅱ - 平野與三郎
・イワナⅢ 源流の職漁者 - 平野與作
・尾瀬 山小屋三代の記 - 後藤允
・はるかな尾瀬 - 朝日新聞社
・燧ヶ岳百年 遙かな尾瀬 - 福島民報

現地情報

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

・・・今シーズンを振り返って・・・

2年目となるシーズンを振り返って、3月の除雪作業、4月の開設準備作業、5月の開所式と昨年のことを思い出し、また、多くの関係者のご協力により令和元年のスタートがきれたことに対して御礼申し上げます。

さて、今シーズンは昨年に比較し残雪の多いスタートとなり高山植物の当たり年となることを期待しておりました。ワタスゲは残念な状況でしたが、水芭蕉は霜の影響もなく良い状態で登山者は楽しむことができたと思います。

また、傷病対応では昨年と比較すると総数及び重症災害も減少いたしました。後半8月からはツキノワグマの出没件数が増加し日々対応に追われることとなりました。

最後になりますが、尾瀬に係わる全ての方々と半年間一緒に生活した管理員に感謝したいと思います。来年度も何卒よろしくお願いいたします。（小川　浩司）

ツキノワグマの追い払いに思う

今シーズンの尾瀬、山ノ鼻周辺地域では夏頃から秋口にかけて、ツキノワグマ（以下クマ）の目撃情報が毎日のようにビジターセンター（以下VC）に寄せられました。生後1・5～2才で単独のクマ、子連れ1頭の親子グマ、子連れ2頭の親子グマなど複数での行動個体。特に秋口ミズバショウ等の実が熟してくると植物研究見本園には毎日出没し、私自身早朝によく散歩に出かけ幾度となく目撃しました。

VCに登山者が立ち寄り、クマ目撃情報が寄せられると職員は出没の場所・距離にもよるが、クマ追い払いセットを持参し現場に向かい追い払いしたり・監視しました。私自身も何度となく出動しましたが、その度に思う事は、クマは何も悪い事はしていないが、餌を求め現れたのが山小屋・木道の近くだったのだと思う、なぜ人間に危険あつかいされなければならないのか、人間にすれば勝手で人の通らない所で餌を探せばいいと思う。

よく言われている尾瀬は奥山でクマの棲み処、人間が山にお邪魔しているのでクマとの共生と言うが…。（笹原　宗利）

今日の後に今日なし？

送る月日に関守なし、とは3年前にも書きましたが、私にとって5年目の尾瀬のシーズンも終わろうとしています。

この文章を書くにあたり思うところは何だろうと考えたところ、

『5年目ともなると上山の頃から終わりまでを見据えているせいか、体感的な時の流れは光のごとく、気づけばもう終わりといった感じでしょうか。しかし振り返ればこの五年間の尾瀬はそれぞれの年に特徴があって同じような年はなく、更に言えば自然の変化とは日々の小さな変化の積み重ねであり全く同じ日はないと実感します』

などとここまで書いたところで、こんな文章を昔も書いたなと思い出し、自然の変化に同じ年も同じ日もないけれど、人の認識は堂々巡りするものかと思った次第です。

最後に、今年もお世話になった山小屋やボランティアの方など関係者各位に感謝申し上げ、結びとさせて頂きます。ありがとうございました。（菅原　與晴）

尾瀬に「住む」

今年、日本では元号が変わるという、大きな変化がありました。そんな記念すべき年。「令和だから」という特別さはないものの、この尾瀬で過ごす時間はやはり特別でした。

尾瀬に半年間「住む」という経験はなかなかできないことだということを、訪れた方たちの「尾瀬に住めるなんてうらやましい」という一言で思わされます。自然の中で生活できること、窓の外を見ればいつでも尾瀬の雄大な自然を感じることができること。これらの貴重な毎日がわたしたちの〝当たり前の毎日〟でした。

今、尾瀬では紅葉が進んでいます。尾瀬での貴重な毎日を心に刻みながら、残り僅かなシーズンを贅沢に過ごしていこうと思います。（萩原　舞）

尾瀬との再会

2年目の山の鼻ビジターセンター勤務となった今年。昨年、勤務を開始するまでは尾瀬と深くかかわっていなかったため、目に入る物全てが新鮮で、多くの動植物とは初めての出会いでした。見たことのない花が咲くたびに「はじめまして」という気持ちで見つめていたのを思い出します。

今年は暦と示し合わせて、あの花がそろそろ咲くかな、と待ち遠しく思ったり、開花を見たら「また会えたね」と再会を果たしたように嬉しくなったり。昨年とは違った喜びの日々を過ごしました。

春も夏も秋も尾瀬で過ごすのは二回目だったけれど、やはり感じるのは同じ瞬間は無かったということです。湿原は陽射しや雲のしぐさによって行きと帰りでは表情が全く違います。美しい尾瀬の自然に囲まれ季節の連続性の中に身を置けたことを嬉しく思います。

最後になりましたが今年も多くのお力添えをいただいた山小屋の方々、ボランティアさん、ガイドさん、関係者各位に感謝申し上げます。（柴﨑　恵）

尾瀬の時間

尾瀬ヶ原に霜の降りる日が多くなり、雪、そして冬の気配を感じます。多くの虫が絶え、多くの草葉が落ち、長く厳しい冬を越える決意のあるものだけが残ったうすら寂しい尾瀬ヶ原に、私たちも下山の準備に忙しく日々を過ごしております。

5月、雪解けの始まりとともに尾瀬へ入り、その春、夏、秋を誰よりも間近に感じる幸運を得てから、間もなく半年が過ぎようとしています。半年の間にそれらの季節が巡るわけですから、そこでの時間はあっという間に過ぎ去ってしまうと考えるのが当然でしょう。ところがヒツジグサの池塘の畔へ、あるいはブナの森の木陰へ佇んでみると、時間など忘れてしまうほどゆったりと流れていて、不思議なものです。

任期を終えるにあたり、お世話になった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。（桝本　隆史）

尾瀬の中で働いて

この度、ビジターセンター初年度勤務だった坂上です。山の中でシーズンを通して住むというのは初めてで、とても貴重な経験をさせて頂いたなと思います。まず一つ目は「尾瀬に咲く花の一生を身近で見続けられる事。」です。植物が芽を出し、茎が伸びて、花を咲かせ、実を付け、種を落とす。今まで尾瀬のニッコウキスゲなどを何回か見に来ましたが、花が咲いたあとの実を付ける過程を見たことはありませんでした。それを観察することが出来、とても勉強になりました。

次に「尾瀬に棲む動物を観察出来る事。」尾瀬で働くと色んな動物を見ることが出来ました。トンボにイモリに野鳥にオコジョにシカに熊。沢山の野生の動物に逢うことが出来、野生の動物たちを身近に感じることが出来ました。

最後に「尾瀬の四季を見届けられる事。」以前は夏の時期に尾瀬を訪れることが多かったのですが。尾瀬の雪原になっている景色や紅葉の景色はとても新鮮で感動でした。そして日に日に季節が移り変わっていく景色を間近で見ることが出来たことに感謝しております。まだまだ尾瀬で働いた感動を語り尽くせないのですが、この辺にしたいと思います。とても貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。（坂上　修司）

現地情報

おこじょだより

尾瀬沼ビジターセンターより

アッという間の半年が終わりました。半年が年々短くなってきているように感じます。

少し準備不足と思いながらも、職員のみんなからアイデアを出してもらい、いろいろなイベントを実施できました。来シーズンは、更に新たなイベントを企画して実施したいと考えています。

窓口に来るお客様が「いつもブログ見てます」とか「いつもFacebook見てます」と声をかけてくださる時があり、とても励みになります。お世辞かもしれませんが、とても嬉しいです。

まず、半年間ともに頑張ってくれた職員に感謝です。そしてサポートしてくださった事務局の皆さんに感謝します。皆さん、ありがとうございました。

（阪路　善彦）

尾瀬での仕事も残り半月となったとき台風が尾瀬を通過しました。オオシラビソなどの大木が何本も倒れました。

登山客の皆様が安全に歩けるように手鋸をもって倒木処理をしながら歩いていたら、木道の間に何か動くものがありました。なんとそれは2匹のオコジョでした。オコジョを見るのは15年ぶりくらいです。非常に人なつこい動物で4mくらいまで近寄ってきて8分にわたりチョロチョロしていました。

これで尾瀬でのいい思い出をまた1つ増やすことができました。（中馬　慎二）

早雲や我を置いて何処へゆく　移ろふ

逢瀬で待ちも待つに

「そんな句を夏に詠んだなぁ」と秋の月を仰ぎつつ、尾瀬の生活も終盤となりました。春から尾瀬と戊辰戦争に関する展示に携わり、それと連動したスライドを実施するなど充実した年でした。

また、多くの人から我が子のように可愛がられ、ザックはランドセル、歩く木道は通学路のようになりました。長い冬休みを終えたらまた、尾瀬に帰って来る春を楽しみに待っています。（川上　藍）

一面の銀世界の中にそびえる燧ヶ岳。5月の入山の時から去年とは全く違う景色の尾瀬沼に迎えられました。あれから6ヶ月、感謝の気持ちでいっぱいなのは去年と同じです。

自然観察会の最後に「楽しかったよ」と言ってもらえたり、「ブログ見てますよ」と声を掛けていただいたとき、尾瀬沼で過ごした時間の幸せを感じます。

尾瀬を心から楽しみたいと願う気持ちを持って、そして豊かな温かい心で皆さんが訪れてくれるから、会話するうちに私も自然の楽しみ方が広がり、心も変わったように思います。

ビジターセンターを訪れてくれた人、山小屋などのお世話になった方々、様々な援助をいただいた方々、皆さん本当にありがとうございました。（加藤　樹）

残雪のたくさん残る尾瀬沼に再び入山したのは5月の半ば頃。賑やかな6～8月が終わると尾瀬もあと少しでまた閉山というところまでやってきました。

今年は夏に企画した尾瀬から暑中見舞いを出すイベントに沢山の方に参加していただいたのが、とても良い思い出です。今はなんでもメールなどで手軽に済ませられる時代ですが、手紙など形の残るものの方がなんだか心に響くような気がします。今度はその手紙を読んだ方が尾瀬にいらしてくれたら素敵ですね。

今年も大変お世話になりました。ありがとうございました。（大澤　未奈）

原点、それは遠い昔の尾瀬。

中学生の体にはまるで不似合いな大きなキスリングを背負い、半分泣き顔で越えた三平峠。咲き乱れるニッコウキスゲの中を縫うように伸びた木道、当時は船で渡れた尾瀬沼から見た原生林の風景…。

森羅万象、尾瀬はすべてに優しく、厳しい。それは、もうひとつの尾瀬。そんな時間をみなさんと過ごすことができ、感動を共有できたこと。ありがとう、尾瀬はこれからもずっと心に残るでしょう。（松田　幸弘）

雪消えから紅葉まで、毎日、燧ケ岳を見ながら尾瀬沼で過ごした半年。次から次へと咲く、初めて見る花々。クマの気配を感じながら歩いた山道。何とも幸せな時間でした。

仕事の方はさっぱりでしたが、ハイキングガイドに載っている道はほぼ歩くことができました。夕暮れ時、大江湿原のニッコウキスゲに見惚れベンチで寝ころんだあの日。その花言葉は「日々新たに」。この気持ちを持ち続けてこれからの人生も歩んでいきたいと思います。（米山　英人）

半年間お世話になりました。今年初めて尾瀬沼にやって来た頃が昨日のことのように思い出せます。それから今日まで色んなことがあり、そのたびに色んな人にお世話になり、感謝の気持ちは筆舌には尽くしがたいほどです。

尾瀬という広大な自然の息づかいをこれほどまでに身近に感じられたこの期間は、私にとってかけがえのないものとなりました。まだまだ未熟者ですが来年もビジターで見かけたらどうぞよろしくお願いします。（石川　知怜）

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介します。

「第14回インタープリテーション研修」を開催しました（以下、IP研修）

9月7日（土）～9日（月）、福島県（御池及び尾瀬沼地区）にてIP研修を実施し、尾瀬ボランティア8名が参加しました。

IP研修は、尾瀬ボランティア登録者が、インタープリテーション（自然解説）の知識や技術を学び、自然解説活動（環境学習ミニガイドツアー及びお話ボランティア）をはじめとするボランティア活動でその技術を生かして活躍できるよう、隔年で実施しています。

▼若林正浩講師

▼共同作業で絆を深める参加者

今回の講師はIP研修でお馴染みの若林正浩講師（公益財団法人キープ協会所属、那須平成の森フィールドセンター長）。

研修前半はコミュニケーション実習。緊張の面持ちの参加者は、講師に導かれるままに、じゃんけんをして走り回ったり、円になってフラフープを上げ下げするなどしていると、まるで講師の魔法にかかったかのように、自然とお互いに打ち解けていました。

その和やかな雰囲気のまま後半は、台風15号の顔色を伺いつつ尾瀬沼地区へ移動。「尾瀬でのガイドプログラムに適応した解説ユニット（資料）づくり」実習を行いました。2班に分かれ、A班はテーマを「尾瀬沼」、B班は「オコジョ、ヤマネ」とし、ガイドになった立場で解説ユニットを作成。この研修で参加者各々が感じ取った「インタープリテーションとは」をフル活用し、それぞれの感性が注ぎ込まれた発表からは、「インタープリテーション」の面白さと奥深さ、そして大切さを感じました。

▲発表準備の様子

「目に見えるものを通して、目に見えないものを伝える」。自然解説活動では、入山者に尾瀬の自然や歴史、そのすばらしさについて知ってもらうことで、美しい風景だけではなく、尾瀬の自然環境保護の大切さを実感してもらうことができます。

▲晴天の尾瀬沼で記念撮影

今回の研修参加者や過去に同研修を修了した尾瀬ボランティアの皆さん、ぜひ来シーズンは自然解説活動へご参加ください！皆さんの尾瀬を愛する力で、一人でも多くの方の心に、自然環境保護の芽を育てましょう。

「ありがとう尾瀬清掃活動」を開催しました

～シーズン終盤、尾瀬の自然に感謝を込めて～

①9月1日（日）一ノ瀬～尾瀬沼

尾瀬ボランティア6名と、（株）太陽誘電より6名の方が初めて参加。雨上がりの木道を下を向いて歩くと、様々な色かたちのキノコに出会い、清掃活動の達成感と秋の訪れを感じた一日でした。

②10月20日（日）尾瀬ヶ原

一面秋色の尾瀬ヶ原の中を木道に沿って、尾瀬ボランティアとJA高崎ハムから総勢30名が、山の鼻ビジターセンターから見晴地区まで清掃を行いました。

▲成果を実感する参加者

「あいおいニッセイ同和損害保険（株）による尾瀬巡回清掃活動」を実施しました

10月5日（土）、この秋一番の晴天に恵まれ、当財団の特別協賛寄付者である同社の群馬県内の支店から19名の方が参加して、初めて尾瀬ヶ原で清掃活動を実施しました。

▲清掃活動中の様子

尾瀬ボランティアや企業の皆さん、今年度も多大な御協力ありがとうございました！来シーズンもよろしくお願いします。

尾瀬のミニ観察《総集編》⑤

平成30年4月6日発行の第36号で惜しまれつつも最終回を迎えたフラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第5回をお送りします。

ミツガシワ　（花期　6月～7月）

ミツガシワは、雄しべ雌しべの長さが異なる二つのタイプの花を別々の株につける。雌しべが短く雄しべが長い短花柱花、雌しべが長く雄しべが短い長花柱花だ。

短花柱花の花粉はハナアブの仲間の、あごや首につき長花柱花の雌しべの先に運ばれる。長花柱花の花粉はアブの口吻の中ほどについて、短花柱花の雌しべに運ばれる。このように雄しべ雌しべの長さを変えて、他のタイプの花粉を受けやすくし、自家受粉を避けているのだ。今年は、ミツガシワの雄しべや雌しべの長さにも注目しよう。

第17回　vol.21（2013.3）掲載

ノアザミ　（花期　7月～8月）

キク科植物は複数の小さい花を束ね、緑の総苞で取り巻いた花束をつくっていて、それは頭花と呼ばれる。

アザミ類の若い頭花には色の濃い雄しべが何本も立っている。そっと触れると10秒ほどの間に、先端から白い花粉が湧き出てくる。これは、昆虫が触れたときに花粉を出して、運ばせようとする仕組みなのだ。だから、触れる力は昆虫の体重の0.3g以下でないと、雄しべは気絶して動かなくなる。何回か試して、花の状態と力加減を覚えてから、お客さんに見せよう。適期は午前中だ。

第18回　vol.22（2013.7）掲載

ウラジロヨウラク　（花期　6月）

ウラジロヨウラクは本シリーズ(15)のヒメシャクナゲと同様に花が下向きに咲く。下向に咲く生態的理由は「蜜や花粉を雨から守るため」と「蜜を盗むチョウやハナアブの仲間を排除するため」の二つをあげた。

これらの花は茶筒のような単なる円筒形ではなく、入り口で細くなり、先端は反り返っている。口が細まることで、開口部がつぶれにくくなり、反り返りはハチの足がかりとして機能する。こうして、下向きの花は力学的に合理性の高い形態をとっている。

第19回　vol.23（2013.11）掲載

ヒツジグサ　（花期　7月～9月）

開花時刻が、昔の刻限の未の刻だから、ヒツジグサと名がついたと説明される。未の刻は今の午後2時前後、本当だろうかと、疑ったことがあるだろう。

実際に観察すると、午前10時頃にぽつぽつと花が見られるようになり、未の刻頃が花盛りで、水面で華やかに揺れている。そして午後4時頃には閉じ始める。未の刻が花盛りなのでヒツジグサと呼ぶのだろう。

本には、時々実際と違うことが書かれている。尾瀬で活動しながら、そんな誤りを発見するのも楽しい。

第20回　vol.24（2014.7）掲載

(フラワーエコロジスト　田中　肇)

寄付のお願い
—尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております—

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。
※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局（☎027-220-4431）にお問い合わせください。

株式会社エコ計画様による寄付受納式が行われました。

10月23日（水）群馬県庁にて、株式会社エコ計画様による尾瀬保護財団への寄付受納式が行われました。エコ計画様からは毎年100万円のご寄付をいただいており、4回目となる今年度で通算400万円になります。エコ計画　井上綱隆社長からのご挨拶・目録授与ののち、財団　山本一太理事長（群馬県知事）により感謝状と記念品の贈呈が行われました。

エコ計画様は、友の会特別会員として例年尾瀬サミットにも参加していただいており、尾瀬について深い関心を持っていただいております。また当財団へのご寄付だけでなく、子どもたちへの環境教育活動にも力を入れており、広く社会貢献に取り組んでおられます。

特別協賛寄付者のご紹介

※9月30日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額　1,396,790 円

顧客と時代のニーズを追い求めて…
糸井商事株式会社

糸井商事株式会社
通算寄付額　3,600,000 円

環境貢献企業
エコ計画
日頃のご愛顧に感謝致します
皆様に育てられてまもなく 50 周年
50th Anniversary

株式会社エコ計画　通算寄付額
4,000,000 円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社
通算寄付額　900,000 円

Beisia

株式会社ベイシア　通算寄付額　1,800,000 円

Minakami Kogen Hotel 200

水上高原ホテル 200（水上高原リゾート株式会社）
通算寄付額　1,900,000 円

ウォーム・マネー WARM の MONEY 福島銀行

株式会社福島銀行　通算寄付額　61,298,006 円

meiji

株式会社明治　通算寄付額　2,400,000 円

Asset Management One

アセットマネジメント One 株式会社
通算寄付額　36,198,545 円

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額381万円余りをご寄付いただきました。

平成19年より今回が13回目のご寄付となります。

通算寄付総額　72,397,090 円

GB 群馬銀行

株式会社群馬銀行　通算寄付額　33,177,942 円

第四銀行

株式会社第四銀行　通算寄付額　6,792,388 円

第四証券 Daishi Securities

第四証券株式会社　通算寄付額　1,852,385 円

すべてを地域のために 東邦銀行

株式会社東邦銀行　通算寄付額　12,760,067 円

協賛寄付者様のご紹介

※9月30日現在、五十音順、敬称略

クラブツーリズム

クラブツーリズム株式会社
通算寄付額　750,000 円

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額　900,000 円

群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額　1,900,000 円

とりせん

株式会社とりせん　通算寄付額　2,478,562 円

NICHINEN

株式会社ニチネン　通算寄付額　1,300,000 円

その他の寄付者のご紹介

※令和元年8月1日～9月30日までの寄付者、五十音順、敬称略

尾崎　喜一、クラブ　ホワイト・ストーン、公孫会北魚支部、合同会社ナシノミクス、齋須　将、殿塚　艶子、ひかり接骨院　千木良　亮介、堀木　紀美子

表紙の風景

赤茶色に染まったヤマドリゼンマイが炎のように一面を覆い尽くして、青く澄み切った空とのコントラストに思わず引き込まれます。人気の無い草原でこの光景を前に佇んでいると、日常とのギャップに軽く気を失いそうになりますね。

時間の流れがあるのかどうかさえ疑わしいように思えてきますが、いずれそう遠くない先には全て深い雪に包まれて、静かな冬の景色に移り変わります。

撮影日：令和元年10月１日

イベント情報

第24回ＮＨＫ「わたしの尾瀬」写真展《全て入場無料》

※予定は変更になる場合があります

高 崎 展

●**期 間**
令和元年12月13日(金)～18日(水)
午前10時～午後5時
※18日(水)は午後4時まで

●**会 場**
高崎シティギャラリー第2展示室
(群馬県高崎市高松町35-1)
TEL:027-328-5050

高崎展公開フォーラム

●**概 要**
令和元年12月13日(金)
午後3時30分～午後4時30分
○新井幸人氏、今井隆一氏による入賞作品解説
○ビジターセンター自然解説員による尾瀬リポート

●**会 場**
高崎シティギャラリーコアホール

前 橋 展

●**期 間**
令和2年1月23日(木)～29日(水)
午前9時～午後4時
※23日(木)は午後1時から、29日(水)は正午まで

●**会 場**
群馬県庁1階県民ホール
(群馬県前橋市大手町1-1-1)
TEL:027-223-1111

写真展の運営にご協力いただける尾瀬ボランティアを募集します。詳しくは尾瀬ボランティア専用HPにて。

尾瀬公式インスタグラムを開設しました。
本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram
ユーザー名：@discoveroze
ＵＲＬ：https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkswzmb3vmrn

『友の会』コーナー

－「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。－

※加入・更新時期は年4回（5月・8月・11月・2月）です。

※5月1日からの加入・更新をご希望の方は3月31日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口　2,000円
	家族会員（個人会員と同居の家族）	1口　1,500円
	ユース会員（加入又は更新時に満22歳以下）	1口　1,500円
賛助会員（団体･企業等）		1口 10,000円
特別会員（企業等）		3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- **友の会会員バッチ進呈**（初回加入時のみ）、**各種資料送付**
- **財団機関誌**：郵送にてお配りします
- **宿泊割引**：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- **尾瀬周辺施設利用料割引**：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
https://www.oze-fnd.or.jp

編集後記

今年に限ったことでもないですが、夏の猛烈な暑さがやわらいだと思ったら、すぐに肌寒く感じられて、秋の風情を感じる暇もなかったといったことがあります。

一年を通して尾瀬の情報発信に携わらせていただきましたが、四季折々、多様な景色で楽しませてくれる尾瀬に、今の季節を知るような日々です。（塚越）

OZE Mobile ●緊急情報 ●お知らせ ●ライブ映像 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。

公益財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2019.12　令和元年12月３日発行
発行所：公益財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1　TEL.027-220-4431／FAX.027-220-4421
ホームページアドレス https://www.oze-fnd.or.jp
ツイッター https://twitter.com/oze_info　E-mail info@oze-fnd.or.jp